

限られた空間を最大限利用した 受付フロント、二階会議室改修

SGHC日本橋本社ビル

明治四年(一八七一年)創業の長い歴史を持つサクラグループの要であるサクラグループホールディングス株式会社(代表取締役会長・松本謙一氏、東京都中央区日本橋本町三―一―九)の本社ビル一階エントランス・ロビー及び二階心接室を会議室への改修を進めてきたが、このほど完成したことにより改めて報道関係に披露された。

今回の改修は、同社が昨年一五〇周年の節目を迎えて未来へ伸びるサクラグループの顔として、また、歴史に刻まれた日本橋の顔とマッチすることを

念頭にして進められてきた。一階ロビーは広いスペースがとられ、同社製のエム・カタテラ顕微鏡はじめ歴史ある品々が陳列された展示棚と受付脇にはサクラグループ国内外の拠点施設の写真パネルが、また正面には島田春雄氏から二〇一五年に寄贈された絵画「献魂」と清水建設の宮本会長

から二〇一五年に寄贈された絵画「献魂」と清水建設の宮本会長らワーが来訪者を出迎える。

また、二階会議室は従来の心接室部分と小会議室を一室にまとめ、また彩光よくTV会議などの対応にも機能的に使えるよう大幅に改修された。また

ロビーには松本福松翁先代の善治郎氏の胸像と江戸時代の地図に同社のルーツである泉州

堺の葉種商からの出発から、今日までのサクラグループのあゆみが展示されており、会議

室内の展示品にも工夫がなされ、古書から歴史を彩るパネル、史料編纂を収めた書籍棚ま

で収められている。今回の改修を手掛けた伊藤喜三郎建築研究所特別顧問の伊藤一章氏は次のように語っている。

「今回の改修に当たり当初のコンセプトを改めて踏襲し、サクラビルがさらに街区と一緒に美しく明るくものにしようとの考え方に基づき、デザインの基本的なイメージを

1. 全体をスッキリ分かりやすく明るい感じに仕上げる。
2. サクラという会社のキャラクター、歴史を尊重する。
3. 壁には木を多用し、基本的に「桜」或いはそれに準ずる木質系とした。
4. 温かみのある素材を用いながらモダンな日本的雰囲気をつくる。

一階部分は、①サララという会社はどんな雰囲気なのかを、外の通りからも感じられるようにする。②複雑な印象だった動線をスッキリとさせ、玄関、待合の雰囲気をも明るくする。③来客も社員も気持ちよく利用できさらにサクラの歴史を識る場とする。

また二階は、①二室あった会議室を一室にまとめ大きくし、TV会議、VIPの接客ができる質の高い会議室とした。②会議室、ロビー、外の景色を連続的な空間とし、広々とした快適な場とした。③限られた空間を最大限利用し、天井高、平面積を損ねる結果として会議室からはロビーを通して緑の街路樹が、まさに目の前に広がり大変気持ちの良い会議室となっている。

